

組込み系ソフトウェア・ワークショップ 2010

組込み開発における日本の強みと弱み ～強みと弱みを認識することから始める～

- 主催：ソフトウェア事業委員会 ソフトウェア事業基盤専門委員会
- 担当部署：インダストリ・システム部
- 参加者数：約120名

概 要

ソフトウェア事業委員会に設置されているソフトウェア事業基盤専門委員会では、我が国の強みの源泉であり、価値創出のキーであると言われている「組込み機器のソフトウェア（組込み系ソフトウェア）」に焦点を当て、この分野での開発力向上等の基盤強化のための活動に取り組んでいます。昨年度（2009年度）は、「組込み系ソフトウェア開発のキモは何か？」と題して、組込み機器/システムのソフトウェア開発におけるキモ（肝要な部分、押さえておくべき部分）とは何であるかについて明らかにしていきました。

今年度は、我が国のソフトウェア開発のこれからの武器となる強みと弱みを再認識し、日本の組込み系ソフトウェアの開発特性に合わせた開発方法を模索することを主目的にワークショップを開催いたしました。

ワークショップ当日は、金子龍三氏（（株）プロセスネットワーク代表取締役社長）による「商品開発方法の革新策－前向き擦り合わせ開発と組合せ開発－」と銘打った基調講演を皮切りに、牧隆史氏（（株）リコー）から「組込みソフトウェア開発における設計改善の事例紹介」、撰暁久氏（富士通九州ネットワークテクノロジーズ（株））より「富士通の組込みソフト開発技術者から見た、擦

り合わせ開発の強み」、小田川直人氏（（株）東芝）より「発電監視制御システムにおけるプロダクトライン構築事例」について講演頂き、最後に「全員参加102人ワークショップ：日本型組込み開発における強みと弱みとは？」と銘打った討論セッションで、会場全員の方が参加し、「組込み系ソフトウェア開発における日本の強みと弱み」について活発な意見交換を行いました。当日の会場では、我が国の組込み系ソフトウェア開発の強みについて①エンジニアの美意識（ひとつの製品をつくり込むことができる）、②良い意味でのいい加減さ（曖昧な仕様でも開発が可能）、③集団力といった意見が挙げられました。また組込み系ソフトウェア開発における弱みについては、①企画力が弱い、②ソフトウェア工学力が弱い、③決断力が弱いといった意見が出されました。当日の参加者アンケートでも、「色々な意見が聞け、参考になった。また、今後の組込み系ソフトウェアの在り方を考える良い機会となりました」といった感想が寄せられており、組込みソフトウェア関係者の意見交換・情報交換の場として継続していく意義を感じつつ、今回のワークショップを終えました。

プログラム

○「ソフトウェア事業基盤専門委員会の活動について」

五味 弘 氏（沖電気工業(株)）

○「ワークショップ2010の狙いと課題認識」

春名修介 氏（パナソニック(株)）

○「商品開発方法の革新策－前向き擦り合わせ開発と組合せ開発－」

金子龍三 氏（(株)プロセスネットワーク）

○「組み込みソフトウェア開発における設計改善の事例紹介」

牧 隆史 氏（(株)リコー）

○「富士通の組み込みソフト開発技術者から見た、擦り合わせ開発の強み」

撰 暁久 氏（富士通九州ネットワークテクノロジーズ(株)）

○「発電監視制御システムにおけるプロダクトライン構築事例」

小田川直人 氏（(株)東芝）

○「全員参加102人ワークショップ－日本型組み込み開発における強みと弱みとは？－」

司会：山田大介 氏（ビースラッシュ(株)）

